

いろいろそろへておきますから又どうぞお出かけ下さいまし。

電話口で「一」

(受話器を取る。交換手の聲かきこえる。)

×河番へ

○日本橋の四〇七七番<sup>1</sup>

×日本橋の四〇七七番ですね。

○え、さうです。

○<sup>2</sup>もしもし、そちらは小林さんの事務所ですか。

●え、えちかひます。

(電話は間違つてかゝつた。)

人物 外人と日本人の男

<sup>1</sup>電話番號を言ふ場合は聞きとり易いヤラに四は(ヨン)七は(ナナ)といふ。○は別に言はない。

<sup>2</sup>電話の場合の呼かけには「もしもし」を使ふ。

○失禮しました。

(もう一度かけなはす。)

○もしもし・小林さんの事務所ですか。

▲はい・さやうでございます。

○小林先生はいらつしやいますか。いらつしやいましたら・電話口へ願ひます。

▲どなた様でいらつしやいますか。

○ジーンズと申します。

▲少々お待ち下さいませ。

(小林先生が電話に出る。)

3 「さやうでございます」は「さうです」の丁寧な言ひ方。

4 「先生」は教育者・講者・法律家などに用ゐる敬稱・姓につける。

5 「いらつしやる」は「ある」の敬語

6 「電話口へ願ひます」は「電話口へ呼んでくれ」の意。

7 「どなた様でいらつしやいますか」は「どなたですか」「誰ですか」の丁寧な言ひ方。

8 「御無沙汰しました」はかなり長くあはず又音信などもなかつた後に使ふきまり文句。

9 「いや・こちらこそ」は「えこちらこそ」「いや」は男の言葉。「御無沙汰してゐます」に對する答。

10 「御呼たてする」は「呼出す」の意

11 「申譯ありません」は「すみません」

12 「何でも」は次に「願ひをき、ませう」が略されてゐる。

13 「御遠慮なく」は「遠慮なく願ひを言つてくれ」の意。

14 「いたゞけないでせうか」は「もらへないだらうか」「くれないか」の丁寧な言ひ方。

△もしもしジーンズさんですか、小林です

○小林先生です・ね・しばらく御無沙汰しました。

△いや・こちらこそ。

○お忙しいところをわざわざ御呼たてして申譯ありませんか・実は先生に願ひがあるんです。

△何ですか・私に出来る事なら何でも。どうぞ御遠慮なく。

○私の友人で法律上の問題で困つてゐる者があるんですか・先生・相談にのつていたゞけないでせうか。

△いゝですとも。月曜と木曜の午後はいつ  
も事務所にゐますから御遠慮なく来て下  
さい。

○さうですか。どうも有難う。日米自動車  
會社のミスといふ男です。私の紹介状  
を待つて伺はせますからよろしく願ひま  
す。

△承知しました。

○では、ごめん下さる。

△ごめん下さる。

<sup>15</sup> 文尾に「とも」は文意を強めるはた  
らきをする。

<sup>16</sup> 「伺はせる」は「行かせる」の意。  
「伺ふ」は「相手のところへ行く」の意  
を表はす敬語。

<sup>17</sup> 「ごめん下さる」はいろいろの場合に用  
ゐられる。

- 1 詫びる場合。
  - 2 訪問の際のノックの代りの呼かけ。
  - 3 別れる時の挨拶。
- こゝでは別れの挨拶である。  
「ごめん下さる」ともいふ。

電話口で 二。

○もしもし、銀座の二七九四番でいらつ  
しやいますか。

×さうです。

△こちらは川上でございますか。ブラウ  
ンさんいらつしやいますでせうか。

×少々お待ち下さる。

× × ×

(ブラウン氏が電話口に出てくる。)

○もしもし、もしもしブラウンです。

自動式電話

人物 外人と中年の日本婦人

自動式電話のかけ方  
受話器をはずしてから番號に従つて起轉  
盤をまはす。銀座の二七九四にかける  
時は、銀座の局番は五七九四から始  
め、5と7を越し次に2794と次々に  
通す。電話番號が六三四の如く千の位に  
達しない時は、先づ0を越し、次に63  
4と通す。

1 電話番號で二か始めにける時は「フタ」  
といふ方の音とリヤすい。「フタセン」  
「フタヒヤク」などを用ゐられるのはそ  
のためである。

2 ますでせうか、いますか

3 「しばらく」は久しぶりであつた時に用  
ゐる挨拶。

4 「あの一は一寸口ごもる時などに用ゐる  
女の言葉。

5 「かしら」は疑問を表はす語。文尾にく  
る時は「か」よりもおたやかにひそく。



△ではお待ちしてをりますからぜひ  
どうぞ。さやうなら。

○さやうなら。

訪問 一。

(事務所の受付で給仕にきく。)

○小林さんの事務所はこちらですか。

×さうです。

○小林さんにお目にかゝりたいのですか  
これを渡してスミスかきたとつたへて  
下さる。

(名刺と紹介状を渡す。)

×はい、少々お待ち下さい。

(給仕は奥へ入る。すぐ又出てき  
てスミス氏を案内する。)

×どうぞ、こちらへ。

場所 法律事務所  
人物 外人と日本人の男

上「どうぞこちらへ」は人を案内する時の  
言ひ方。

(悪接聞へみちびく。)

Xすぐお目にかゝるさうですから。こ  
こでお待ちになつて下さい。

(給仕は出て行く。しほらくして  
小林氏が出て行く。)

△やあ、お待たせしました。スミスさ  
んでいらつしやいますか。私・小林  
です。

○スミスです。はじめまして。どうぞ  
よろしく。

△始めてお目にかゝります。どうぞ  
よろしく。

○先生のお名前はジョーンズ君から度々  
伺つてをります。

△私もジョーンズ君とはかれこれ十年ち  
かくも御交際を願つてをります。

(給仕がお茶を持ってくる。)

△祖茶ですか。どうぞ。  
(客は茶をのむ。)

△大分暖くなつてきたやうですな。  
この分では暖もちまに暖くてせう。

○今年はずせひ吉野山へ行きたいと思つ  
てゐます。  
早速ですか。先生に一つ習志をかし

2「……さうですから」は「……と小林さん  
か言つてゐますから」の意。

3「やあ」は月の便ふ助詞。  
女は「まあ」をつかふ。

4「お待たせしました」は人を待たせた時の  
託の言葉。長く待たせなくても儀禮上つか  
ふこともある。

5「はじめまして。どうぞよろしく」は始  
めての人にあつた時の挨拶。「はじめ  
お目にかゝります」ともいふ。

6かれこれ「およそ」

7「御交際を願つてをります」は「つきあ  
つてゐます」の丁寧な言ひ方。

8日本の習儀では来客かあると時間にかま  
はずお茶を出す。事務所でも家庭でも同  
じである。

9「祖茶ですか」はお茶をすゝめる時の言  
葉。「祖茶」とは「祖末な茶」の意。

10この分では「こんな具合なら」

11「早速ですか」は用件を言ひ出す時の  
前おき。

12「習志をかす」は「相談にのる」「忠告  
を與へる」の意。

ていたどかなくてはならない問題か起つたんです。

△どんな事ですか。

× × ×

○いろいろ有難うございました。どうぞよろしく願ひます。

△承知しました。出来るだけの事はいたします。ジョーンズ君に<sup>B</sup>よろしくおつたへ下さい。

○お<sup>14</sup>忙しいところを失禮しました。

こめん下さい。

△こめん下さい。

訪問 二。

(ブラウン氏は日本の家の玄關に立つてゐる。)

○こめん下さい。

(二三度呼んだ<sup>誰も</sup>か出てこない。気がついて呼鈴を押す。女中か出てくる。)

×いらつしやいませ。ブラウンさままでいらつしやいますか。

○さうです。

×<sup>1</sup>さあ、どうぞ、お上り下さいませ。

(女中はスリッパをそろへて出す。ブラウン氏は帽子と外套を女中に渡し靴をぬいで上りスリッパをはく。)

<sup>B</sup>「……によろしく」は「……に私の好意をつたへてくれ」の意。

<sup>14</sup>「お忙しいところを失禮しました」は「忙しいのに時間をとらせてすまなかつた」といふ意味。

場所 日本の家  
人物 外人  
日本人夫妻  
娘と息子  
女中

<sup>1</sup>「さあ」はせきたてる氣持を表はす語。合に添へる。「どうぞ」は人に物をすすめる。

<sup>2</sup>スリッパは日本の家庭では廊下・應接間等のたゝみのしいてな<sup>い</sup>ところで使ふ。來客は靴をぬいでスリッパをはいて上る。

×どうぞ、こちらへ。

(女中はブラウン氏を應接間に案内し椅子をすゝめる。)

×どうぞ、おかけ下さいませ。

○ありかたう。

(川上氏夫妻が出てくる。)

◎やあ、いらつしやい、しばらく。

△まあ、ようこそ。<sup>3</sup>

○お招きに預つて早速参りました。皆さんお元氣ですか。

◎おかけ様で皆元氣です。よくきてくれましたね。

<sup>3</sup>「まあ、ようこそ」は女が來客を迎へる時の言ひ方。親しい間柄では「あらつしやい」などともいふ。

△はんたうにお久しぶりでございますわね。こちらにいらつしたと伺ひましたので、お目にかゝりたくて、失禮かと察も存じましたか<sup>5</sup>お電話いたしましたんでござりますの。

<sup>4</sup>「お久しぶり」は「久しぶり」の丁寧な言ひ方。

○お元氣な皆さんにお目にかゝれて實に懽快です。

<sup>5</sup>「お電話いたしました」は「電話をかけた」の丁寧な言ひ方。「は」の丁寧な文尾。「の」は女の言葉の特長。

◎今夜は久しぶりでゆつくりしていつて下さる。

○ありかたう。

△奥さまはお元氣でいらつしやいますか

○おかけ様で元氣です。



△お嬢様はおみ大きくおなりでいらつし  
やいませうね。

6「おみ大きく」は「大きく」の丁寧な言  
ひ方。但し女の言葉。

○もう七つになりました。

△まあ、お早いものでございますわね。  
礼母軍でお母様とよく散歩していらし  
つたのかついこの間のやうに思へます  
のにねえ。

○お毛のお子さん方はお元気ですか。

△ありかたうございます。娘の方はお  
かげ様で、この春女學校を出ましたか。  
長男は昨年南方で戦死いたしましたの

○さうですか。それは残念な事でした。  
さぞお力おとしてせう。お祭ししま  
す。

7「何もございませんか」は食事をすゝめ  
時にそへるきまり文句。

△いや、どうも仕方ありません。ま  
あ弟の方が元氣にやつてゐますから……

(女中かきて食事の用意の出来た  
事を知らせる。)

△何<sup>7</sup>もございませんか食事の用意か  
きましたからどうぞ。

(夫人は先に立つて客を日本座敷  
へ案内する。ブラウン氏はスリッ  
パを廊下にぬいで座敷へ入る。)

△さあ、どうぞ。おしま下さいませ。

8坐布団をすゝめる時には「おあて下りさ  
ともいふ。

(夫人は坐布団の間をすゝめ、ブラ  
ウン氏は坐布団の間を背にして坐る。)

△さあ、あなた方もこつちへきて小父  
さまに御挨拶なさい。

(娘と息子が出てきておじぎをする)

△子供達でございませう。

娘いらつしやいませう。

息子いらつしやいませう。

○あゝ、これはこれは、みなさん大き  
くなりましたねえ。

(皆一緒に食卓をかこんで坐る。)

△何もございませんか、どうぞ召上つ  
て下さいますせ。

9 「小父さま」とは子供か一般に男の大人  
をさしていふ言ひ方。「小父さん」とい  
ふのは女の人の對しては「小母さま」と  
いふ。

10 「これはこれは」はおどろいた時の表現。

○いたゞきます<sup>11</sup>。

(皆、ほしをとる。)

○日本食は久しぶりです。

△天ぶらかお好きでいらつしやいました  
わね。

◎近頃は天ぶらもうまいのはたべられな  
くなりましてね<sup>12</sup>。

○さや、なかなか結構です。

(話をしなから食卓をする。)

×どうぞ。

(ブラウン氏の茶碗かからになつた

11 「いたゞきます」は食卓を始める前にさ  
ふ言葉。

12 「……ましてね」は「ました」よりも會  
話的な表現。

ので女中かお代りをつけようと盆を差出す。

○お遅く願ひます。

(ブラウン氏は茶碗を盆の上へ差出す。女中はそれに飯を入れた)

X X X

Xお汁のお代りをどうぞ。

(女中は盆を出す。)

○さや、もう結構です。

X X X

(食事が終る。)

13 「お遅く願ひます」は「茶碗に澤山もらすは少しくればよい」澤山もつてもよい

14 「もう結構です」は「もういらなら」と断る言ひ方。「さや」意味の「結構」と間違へやすから注意。

○どうも御馳走様でした。おしくたさきました。

15 「御馳走様でした」は食後の挨拶。単に「御馳走様」でもよい。

◎まことにお粗末でございました。

(女中か食器をかたづけらる。)

◎この上をちよつとふいておくれ。

Xはさ。

16 「お粗末でございました」は「御馳走様」に對する答。「お遅うございました」ともさや。

(女中は食卓の上を茶をいならべられ)

△ちよ子、小父様に琴をおきかせし

17 「おきかせしたら」は「きかせたらどうですか」の意で命令の氣持をふくんでゐる。女の言葉に多い使ひ方。

娘はさ。

○ぜひ一つきかせて下さい。

(娘は琴を出してひく用意をする)

娘お母様、何にいたしませうか。

△秋の七草はどう。

娘さうね、ちやあ秋の七草にいたしま  
せう。

○何を表してゐる曲ですか。

△秋の月夜の景色を表したものでござ  
います。

(琴かはじまる。皆黙つてきいて  
ゐる。一曲終る。)

○静かない、曲ですな。ちよ子さんお  
上手ですなえ。

△はいえ、まだまだ。下手でございま  
してねえ。

○もう一つ何かきかせて下さいません  
か。

娘ちやあ、おなじみの六段にいたしませ  
う。

(一曲ひき終る。)

○どうも有難う。琴はいつきいてもい  
ふものですな。

(主人の方に同直つて踊りの挨拶を  
する。)



娘  
息子 さやうなら。

○さやうなら。

